

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870301124		
法人名	池田観光開発株式会社		
事業所名	グループホーム鶴沼の里(2) B棟		
所在地	土浦市神立東1丁目16-33		
自己評価作成日	令和1年8月20日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 12 月 7 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870301124-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日の食事では、食材の安全に気を付けると共に季節の食材を取り入れ、食事を楽しんでいる。又、機能に応じた個別ケアに力を入れ、利用者に寄り添い、一方的な介護されている側とせず、職員との協働生活を目指し、日々工夫を重ねている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田園風景に囲まれた民家が点在する場所に位置し、利用者は職員と一緒に近くの鶴沼へ散歩に出かけ四季折々の自然を感じながら日々を過ごしている。管理者は日頃から職員に話しかけコミュニケーションを図り何でも話せる関係を築くとともに、働きやすい職場の環境づくりに力を入れている。職員同士も楽しく自由に仕事をしている。職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活が出来るよう支援している。コロナ禍で「お花見」「バーベキュー大会」「館市場の外食」「日々の外出」などが中止になってしまった現状を受け止め、コロナ禍でもできる事を管理者と職員で話し合い、利用者の誕生会をする事、窓越しに家族と面会ができる事などを決めて実行している。食事を楽しみなものにするために、利用者の希望を取り入れ献立を工夫したり、近隣の食堂からテイクアウトをしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、実践につなげていくよう努めている。	各ユニットの事務室に理念を掲示し職員各自で確認しているほか朝礼時に唱和している。その人らしいあり方を基本として家庭的な雰囲気状態で状態にあわせて支援に努めている。地域の一員として散歩の際、挨拶をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、運動会などには参加していたが、現在はコロナ禍の為、交流の機会はあまりない。	現在コロナ禍のため日常的な交流はないが、定期的に地域の床屋が来所してくれている。コロナ禍前は小学校の運動会に参加したり、事業所主催の納涼祭などに近隣住民を招待して交流を深めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等認知症の理解を得て、交流に活かしていたが、地域貢献の取り組みは、コロナ禍の為、現在はなされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の前には、2ヶ月に1回行っていたが、現在はコロナ化の為、自粛されている。	外部の委員は参加せずに行い、議事録を市役所に送付している。委員には意見を求めるまでには至っていない。	コロナ禍のため利用者と職員のみで2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、外部のメンバーには運営推進会議議事録と意見や要望書を送付し、意見を汲み取る事などの工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課と電話等で連携はとれている。	コロナ禍で直接のやり取りは減っているが、電話やファックスなどでやり取りをしている。コロナ感染症対策のための物品が届いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解はしているが、やむを得ず危険な場合に限り、ご家族の同意を得て行っている。	身体拘束適正化検討委員会を運営推進会議と一緒に開催しているが、指針と身体拘束適正化検討委員会議事録を作成するまでには至っていない。職員の研修も行うまでには至っていない。玄関や各ユニットの扉の施錠について、家族から同意書を得ている。	身体拘束適正化の指針と身体拘束適正化検討委員会議事録を作成するとともに、職員の研修を年2回以上開催することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で話し合いをしながら、施設内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は制度を利用している利用者様もいたが、現在は利用されておらず、学ぶ機会も得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は、本社とご家族との話し合いで理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見・要望は受け入れて運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置するとともに面会時に意見を聞くようにしていたが、コロナ禍で面会が中止のため電話で聞くようにしている。家族等からの要望で窓越しの面会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の代表者・管理者とのミーティングがあり、職員の意見や提案を話す機会がある。	毎月の職員会議と社長ミーティングで意見や要望を職員から聞いている。壊れたものの修理や購入などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社対応。現在はコロナ過の為、研修などの機会も少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の為、交流等の取り組みなど話されていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思い、不安や不穏になることなく安心して暮らしていけるよう、心がけて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に耳を傾けケアプランを立て、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援を見極めてサービスに努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている残存機能を大切にしながら、共に関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族が要望する時受診・外泊・外食など共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会等は途切れないよう支援に努めている。居室にてお茶など召し上がってゆっくりと関係を築いていく。	入居時の聞き取りや生活歴から把握し、日常生活の中での関わりで把握した事柄を業務日誌やケース記録に記録し共有している。コロナ禍前は馴染みの床屋に行ったり、友人が面会に来ていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの持っているものを大切にして生活の中に取り入れ、協働でできる支援に努めているが、現在はコロナ過の為、交流が難しくなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組みは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の表情・仕草などから、判断し、職員間で話し合いもしている。ご本人の思いや暮らし方の把握に努めている。	利用者に直接聞いたり、日常の関わりの中で利用者の仕草や態度から思いや希望を把握している。利用者の表情や仕草などを観察し汲み取ってフェイスシートに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や会話の中から、暮らし方を把握して支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態を見ながら、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から話を聞いて、介護計画書を作成し、サービスに支援に努めている。	毎月のカンファレンスで話し合いをしている。2ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をに記録し、職員間情報を共有し、支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの機能・日々の変化に対応してサービスに支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等でボランティアに来て頂き、交流を支援していたが、コロナ過の為、現在はやっていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に沿ってかかりつけ医を支援している。	希望するかかりつけ医への受診が可能なことを契約時に説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が月1回ある。毎週訪問看護師の健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回来所し、困ったことを相談したり、アドバイスを頂く。場合によっては、病院受診・救急勧められたりという事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等状態の分かる書類を提出し、退院時状態の分かる看護サマリーをもらっている。病院との関係づくりを大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いの元、支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに関する同意書はあるが指針を整備するまでには至っていない。重度化と看取りの同意書というタイトルだが実際には看取りを行わないにもかかわらず看取りのみであり内容が理解しにくいものになっている。	重度化を明確にした指針を作成し、職員の研修を実施することにより、サービスの向上に繋がることを期待する
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を2年に1回受講し、資格を持っているが、現在はコロナ過の為、講習は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回定期的に行い、全員避難する方法を身に付けている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。11月の開催時に地域住民の参加呼びかけをする予定で、自主消防団等や運営推進会議のメンバーへの声掛けを検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに声かけて、言葉かけに気を付けて対応している。	個人情報に関する同意書を得て本部に管理している。人権尊重や守秘義務に関する研修を行うまでには至っていない。	人権尊重や守秘義務に関する研修の実施により、より良いサービスの向上に繋がることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に沿うようにしているが、自己決定できるように工夫している。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせた、生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分御好きな服を選んでもTらったり、1ヶ月半に1度出張床屋をお願いして、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の消毒やテーブル拭き、「バタカ」を5回大きい声で言う等、食事が楽しく美味しく食べられるよう常に心がけて支援している。又、下膳できる人は、ご本人にしてもらっている。	職員は利用者の意見を取り入れ1ヶ月の献立をたて、1週間の予算の中で買い物をし、厨房で調理して温かい食事を提供している。誕生日にケーキでお祝いをしたり、近所の食堂でテイクアウトする等食事が楽しめるようコロナ禍でも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量をチェックしたり、栄養のバランスを見ながら、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔に心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握して、支援を行っている。なるべくオムツにならない様布パンツリハビリパンツを使用している。	便秘対策としてヨーグルトや野菜、水分を摂取するようにしている。運動を取り入れている。日中は全員リハビリパンツ、夜間はポータブルトイレを利用するなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事を工夫して便秘を防いではいるが、無理な場合は薬対応の時も有る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく入浴できるように、入浴表を作り、誰でも入浴できるよう支援している。	基本は週3回、利用者の希望でいつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には声をかける職員を替えるなどしている。他に足浴や清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の取れる時間を設け、夜間ゆっくり安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の名前の薬を確認し、飲み終わるまで支援に努めている。何かあった場合には症状や変化を見逃さないように、申し送り・ケース記録で確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴を生かして、できる事はやって頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外出・外泊などその時に応じて支援していたが、今はコロナ禍の為、散歩にあまり行っていない。	コロナ禍での外出は自粛しているため、気分転換を兼ねて駐車場に出て歩いたり、体操をしたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は、ご本人と話しをして頂き、手紙などはご本人と渡すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの生活感や季節感を取り入れ、明るく居心地良く過ごせるよう工夫している。	室温の管理には気を配り、温度計を各フロアや廊下に設置して事務所で温度調整している。玄関や廊下はゆったりと広く車椅子の往来がスムーズに行える。壁には季節感溢れる折り紙の作品や利用者の描いた油絵が飾られている。居間兼食堂の窓からは田園風景が広がり、季節を感じられる落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど置き、ゆっくりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂き、思い出の物など飾っている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に対応してご本人の持っている物を大切に支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

所名 グループホーム鶴沼の里(2)

作成日 令和3年11月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束適正化委員会の指針と議事録を作成すると共に、職員の研修を年2回以上開催していない。	身体拘束適正化委員会の指針と議事録を作成し、職員研修を年2回以上開催する。	身体拘束適正化委員会の指針と議事録を作成し、職員研修を年2回以上開催し、サービスの向上に努める。	6ヶ月
2	3	コロナ禍の為、利用者と職員のみで2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、外部のメンバーには運営推進会議議事録と意見や要望書を送付し、意見を汲み取ることなどの工夫がなされていない。	運営推進会議を職員のみで開催しているが、外部のメンバーに運営推進会議の議事録をと意見や要望を聞き、反省させる。	運営推進会議議事録を外部のメンバーに送り、意見や要望を聞いて、それを反映させていく。	6ヶ月
3	12	重度化を明確にした指針を作成していない。	重度化を明確にした指針を作成し、職員研修を行い、サービスの向上につなげていく。	重度化を明確にした指針を作成し、職員の研修を実施する事により、サービスの向上につなげていく。	6ヶ月
4	14	人権尊重や守秘義務に関する研修の実施ができていない。	人権尊重や守秘義務に関する研修を行い、より良いサービスの向上につなげていく。	人権尊重や守秘義務に関する研修を年1回行い、より良いサービスの向上に努めていく。	6ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。